

No残業Dayの 定着化を目指して

竹田訪問看護ステーション

武田 紗織



ワークライフバランスの観点から

H26年～毎週水曜日のNo残業Day

の定着化を図っていた

しかし...

業務の調整がつかず、定着化に至らなかった

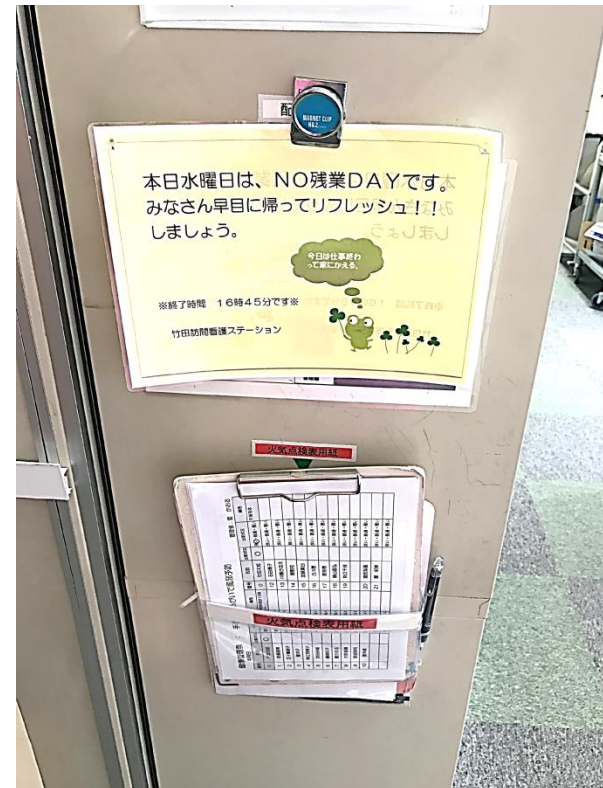
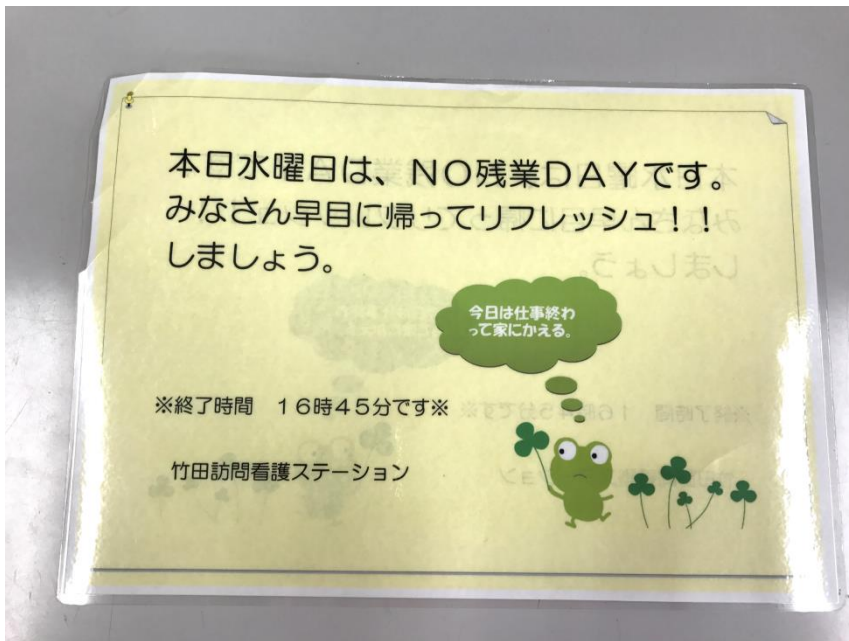
➡ 原因を分析＋対策を検討！



対策前の業務の状況

①意識づけ

- 朝礼や夕方にスタッフによる声かけ
- 入り口に張り紙



対策前の業務の状況

②16:30までにステーションに戻れるように訪問の調整

③夕方:チームメンバーがそろってから申し送り、相談
☆口頭ではなく、ノートでの申し送りを実践

④介護福祉本部内で毎週水曜日のNo残業Dayを宣言
電話連絡は17時以降はしない様に、関係部署へ協力を
依頼



1日の流れ(対策前)

朝

- 入口に張り紙
- 朝礼: スタッフによる声かけ

16:30頃

- スタッフが事務所に戻ってくる
(訪問調整)
- 全スタッフが戻ってきてから
申し送り・相談(口頭・ノートにて)

定時

- スタッフによる声かけ

原因分析

①全スタッフにアンケートを実施

アンケートは対策の前後2回実施

②5S係で集計・分析を行う

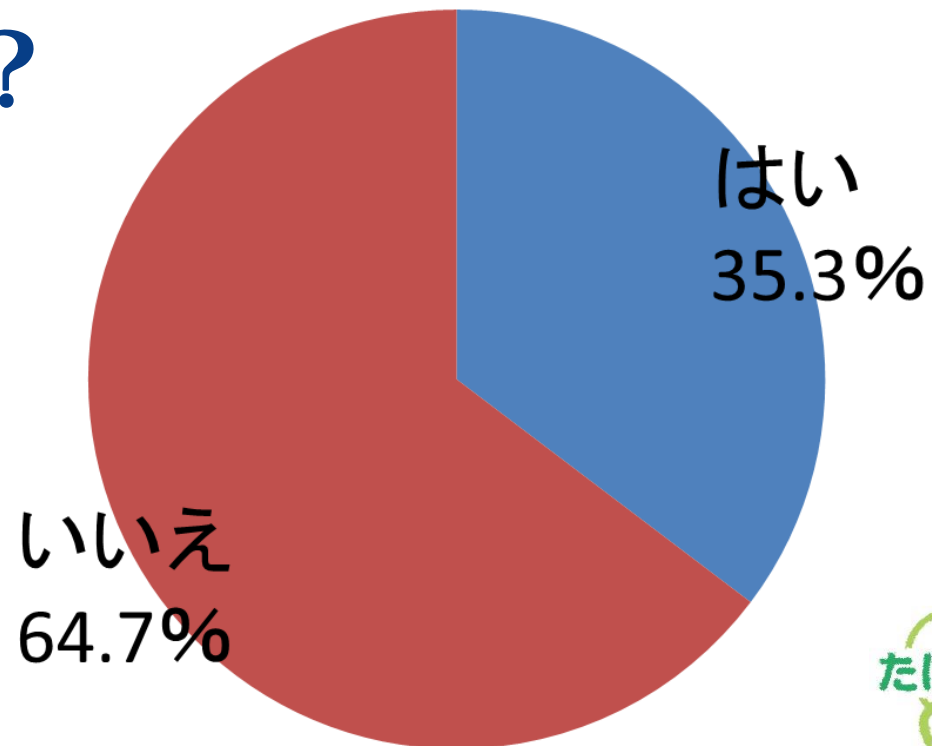
③5S係で具体策を検討する



アンケート結果(対策前)

①No残業Dayには定時に帰ることができますか？

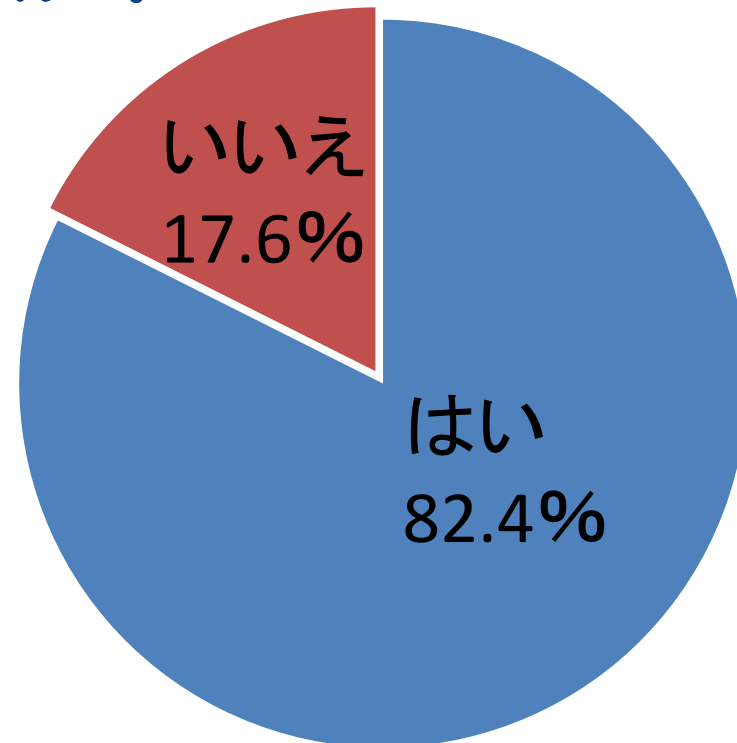
- はい:35.3%
- いいえ:64.7%



アンケート結果(対策前)

②ここ3年間、No残業Dayを行っていますが、
帰る努力をしていますか？

- ・はい:82.4%
- ・いいえ:17.6%



アンケート結果(対策前)

<はい:理由>

- 記録の工夫
- 翌日で良い仕事は翌日と割り切る
(その日に必要な業務のみ行う)
- 声かけをしている

<いいえ:理由>

- 仕事が終わらない、先延ばしにたくない
- 残っている人もいるため、定時に帰ることに抵抗がある。

アンケート結果(対策前)

③定時に帰ることができない原因はなんですか？

- 意識が薄い
- 訪問時間の延長
- 申し送りの延長
- 時間外のチームカンファランス
- 記録の時間
- 仕事が多い

アンケート結果（対策前）

④どのような対策・業務の改善があると
定時に帰ることができますか？

- 各個人の意識づけのための取り組み
- 上司、先輩が率先して帰る
- 帰宅時間を宣言する
- 記録の簡素化
- ノートでの申し送りの徹底
- リーダーが残っている仕事を確認し、整理する
- 空き時間の有効活用



アンケート結果 まとめ

○現状：約7割のスタッフがNo残業Dayに帰ることができていない

○原因と対策

- 1.各個人の意識が薄い→ **意識改善**
2. 記録に時間がかかる、申し送りに時間がかかる
→ **業務内容(記録、申し送り方法)の見直し**
- 3.リーダーの業務が多い、訪問からの帰宅が遅い
→ **業務量の調整**

具体策の検討

- **意識の薄さ**に焦点を当て、対策を検討した

テーマ

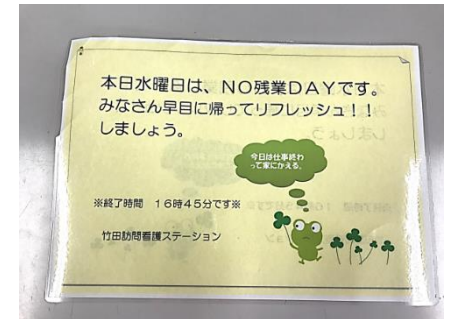
「No残業Dayの見える化」

「帰りやすい環境づくり」に決定！

- 現在行っている対策は継続

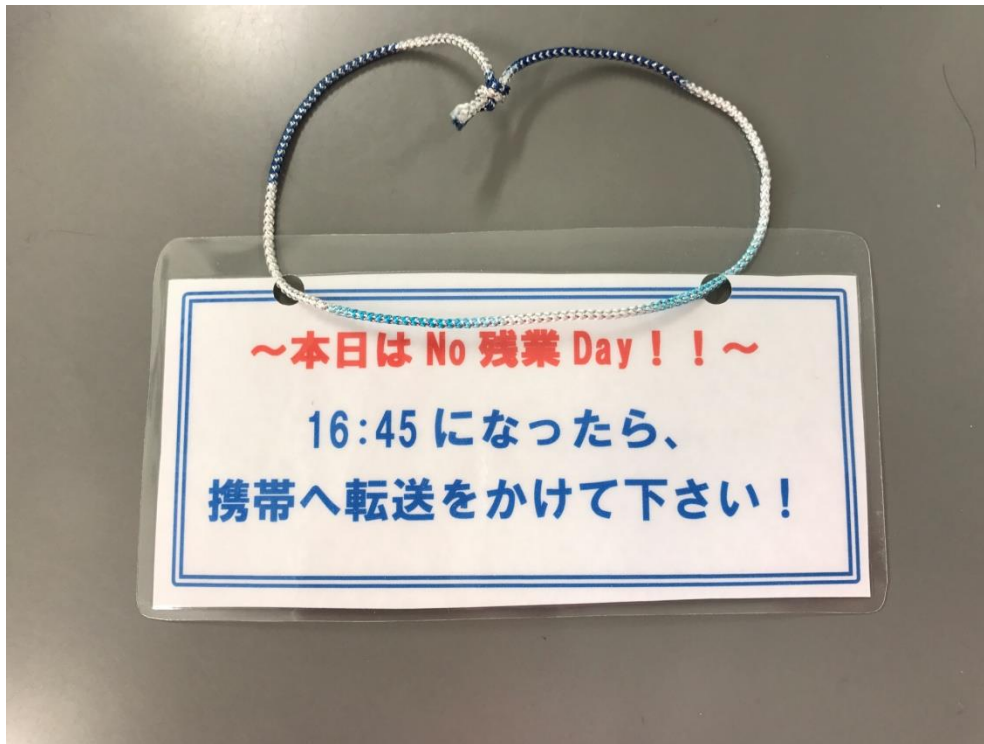
(スタッフへの声かけ、入り口の張り紙、関係部署への協力依頼)

- **さらに**4つの対策(5S係にて)を実施



対策①

①水曜日の朝に電話に札をかける(見える化)



対策②

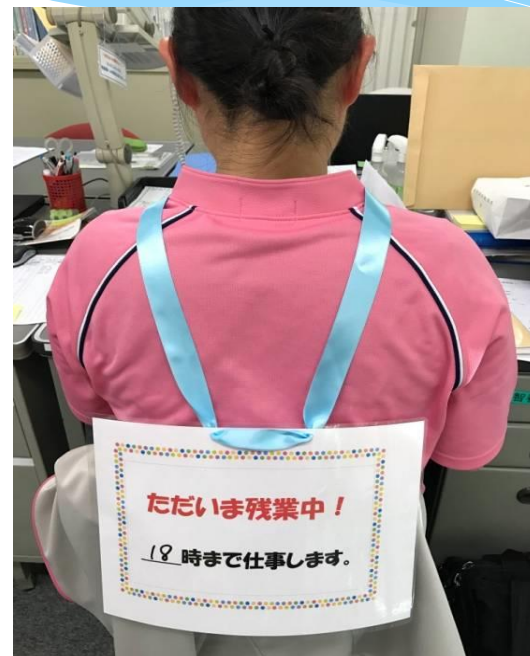
②定時に蛍の光を流す

声掛けにより仕事の終わったスタッフ
には帰宅を促す(帰りやすい環境づくり)



対策③

③残る必要のあるスタッフは管理者へ何時まで残業するかを伝え、「〇時までには帰ります」と記載された札を首から下げて、仕事を行う



対策④

④パソコンの電源を落とす

対策：1日の流れ

朝

- ・入口に張り紙
- ・朝礼：スタッフによる声かけ
- ・電話に札をかける

16:30頃

- ・スタッフが事務所に戻ってくる
(訪問調整)
- ・全スタッフが戻ってきてから
申し送り・相談(口頭・ノートにて)

定時

- ・スタッフによる声かけ
- ・蛍の光を流す PCの電源を落とす
- ・残る必要があるスタッフは
所長へ声かけし、札を首からさげる

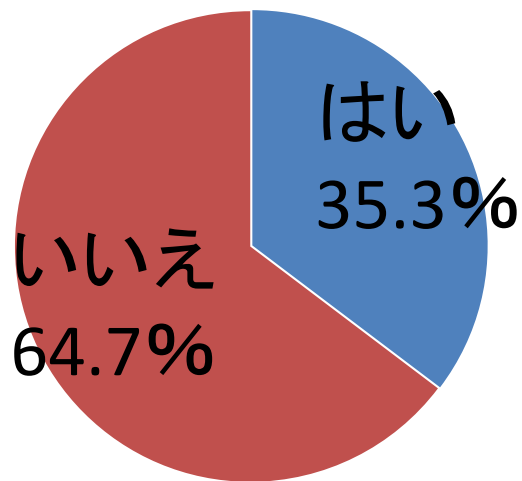
※3ヶ月(計12回)No残業Dayの対策実施。

アンケート結果(対策後)

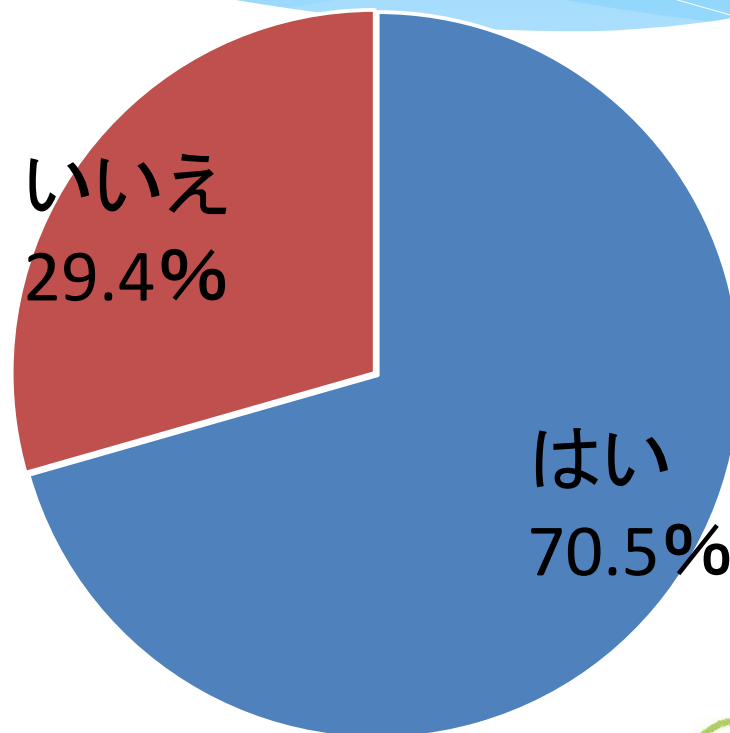
(H29.6~H29.9の3か月間実施)

①No残業Dayには定時に帰ることができますか？

- はい 70.5%
- いいえ 29.4%



<対策前>



<対策後>

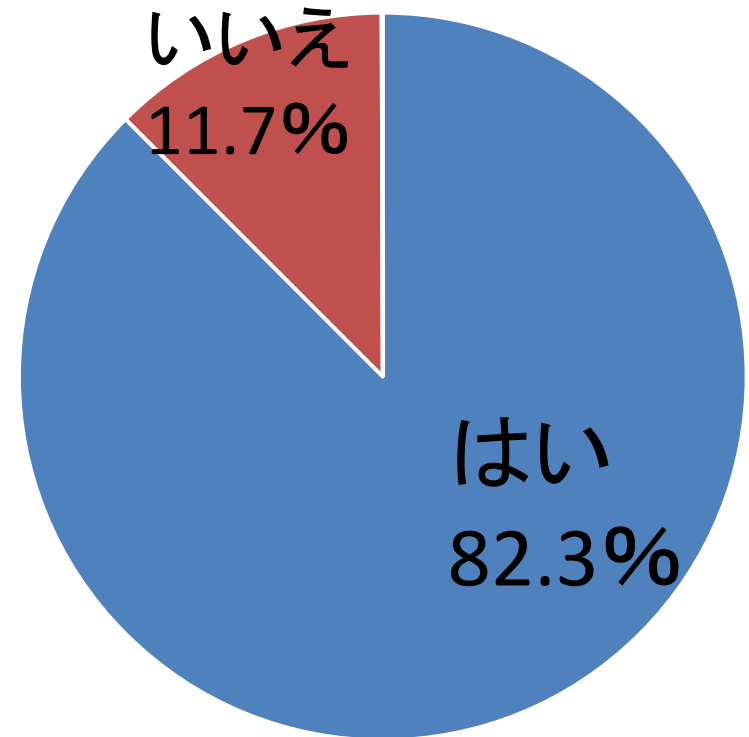
<いいえ：理由>

- 緊急の訪問（予定外、時間外）
- その日のうちに行う必要のある業務
 - 水曜夕方方の研修講師（本部内）
 - 当日入院した利用者の申し送り作成
 - 他事業所への電話報告等
- 業務が終わらない

アンケート結果（対策後）

②対策により帰りやすくなりましたか？

- はい 82.3%
- いいえ 11.7%
- どちらともいえない 0.05%



<いいえ、どちらともいえない:理由>

- 月末は難しい
(報告書作成などの月末業務のため)
- 音楽が流れると気が焦る。集中できない。
電話対応中の音楽は困る

アンケート結果 まとめ

- 定時に帰ることができるスタッフの割合が、3割から7割となった
- 対策により帰りやすい環境と感じるスタッフが8割となった

⇒スタッフが早く帰宅し、使用しない電気を消すため、節電にもつながった

※平成29年度 年間電力使用量が1922Kwh減少した

⇒残業で残る人も集中して仕事ができる環境になった



今後の課題

- 業務自体の見直し

- ① 申し送り・記録方法

- 申し送りはiPhoneを活用、記録はICT化を目指している

- ② カンファランスの時間

- ③ 訪問時間・仕事量の調整

- 係としての定着

- ① 役割の確認、積極的な声かけの継続

- ② 蛍の光：電話への配慮

 **No残業Day の100%の帰宅率とNo残業Day 以外の
残業時間の減少を目指し、業務改善を継続！**